

新型コロナウイルス感染症

効果的な感染対策について

～施設での事例を通して～

はじめに

施設の中で陽性者が急増すると職員の方々の負担が大きくなります。

保健所が今まで施設調査をしてきた中で、

普段から感染対策をしていただくと効果的であると感じたポイントについて、

施設で工夫している事例を含めて紹介します。

さいたま市保健所疾病対策課

体調確認（職員）①

◆体調は、“発熱以外も確認”をしましょう。

●体調確認は、感冒症状もチェック

なんか
変だな？



●症状がある場合は、抗原検査で陰性
であっても感染対策をして勤務



体調不良時は休むの
が最良。やむを得ず
勤務しなくてはなら
ない場合の想定です。



※咳症状がある場合は、N95マスクの着用
も検討しましょう。

体調確認（職員）②

施設の工夫例

- ・ フェイスシールドやN95マスク、抗原検査キットを全職員に配布している。
- ・ 体調不良時は、出勤前に相談の連絡ができる体制を整えている。
- ・ 本人だけでなく、職員家族が体調不良・陽性になった場合でも、出勤前に職場の責任者へ連絡し指示を仰いでいる。



良い理由

新型コロナウイルスは、発熱以外にも咽頭痛や頭痛のみなど、軽い症状の場合もあります。これくらい大丈夫とは考えず、気軽に体調の相談・対策がとれる環境が大切です。

体調不良を報告しやすい体制・雰囲気づくりを検討しましょう。



体調確認（入居者）

◆体調の確認方法を見直してみましょう。

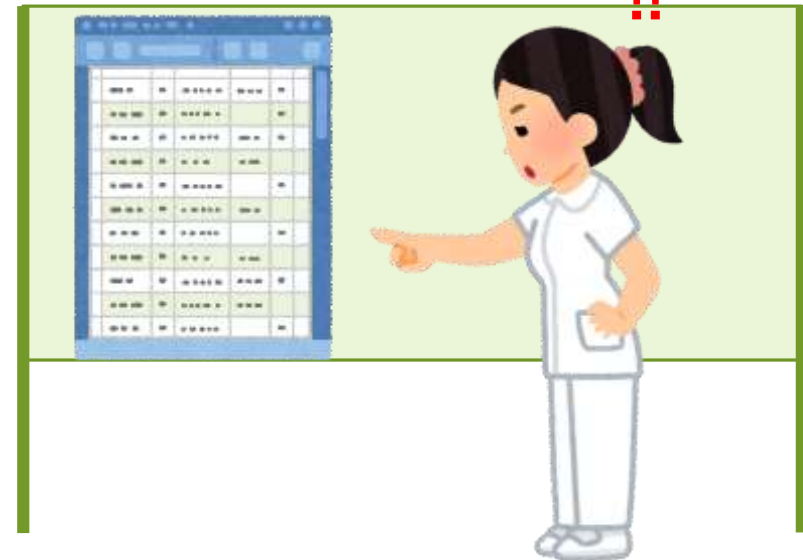
●できるだけ毎日体調確認

体調確認を
毎日実施



微熱など、軽い症状でも
管理者・看護師に報告

●体調を職員が共有できるところに
掲示



体調確認（入居者）

施設の工夫例

- ①朝食時等、皆が集まる時に検温を行う。
- ②部屋の入口に、記録表を掲示。食事量や排泄の記録と併せて、体温や体調も記録する。

良い理由

①みんなが集まる時等、スムーズに体調確認ができると少ない労力で体調不良者を早期に発見することができます。その際に、非接触体温計を活用する方法もあります。早期に対応できると、感染の拡大を防げることが多いです。

②入居者の体調は、職員全員が確認できるよう、共有できる場所に掲示する方法も有効です。

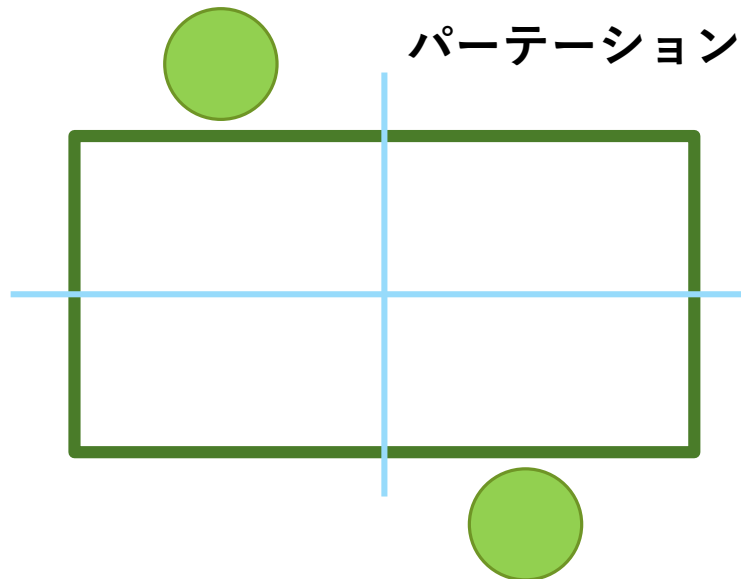
職員全員が入居者の体調を把握できれば、初動時のスムーズな対応につながります。



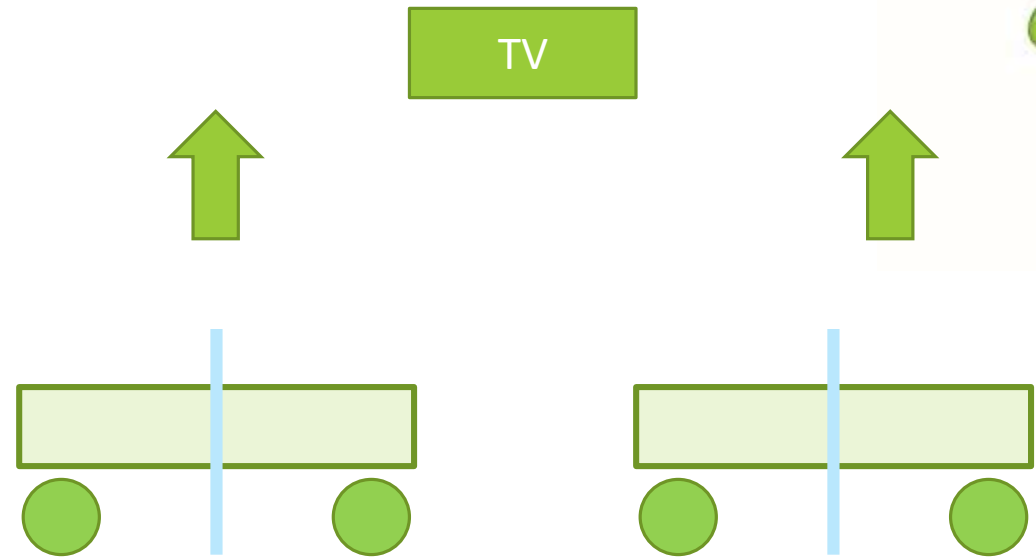
食事の工夫

◆席を工夫してみましょう。

●密を避ける配席



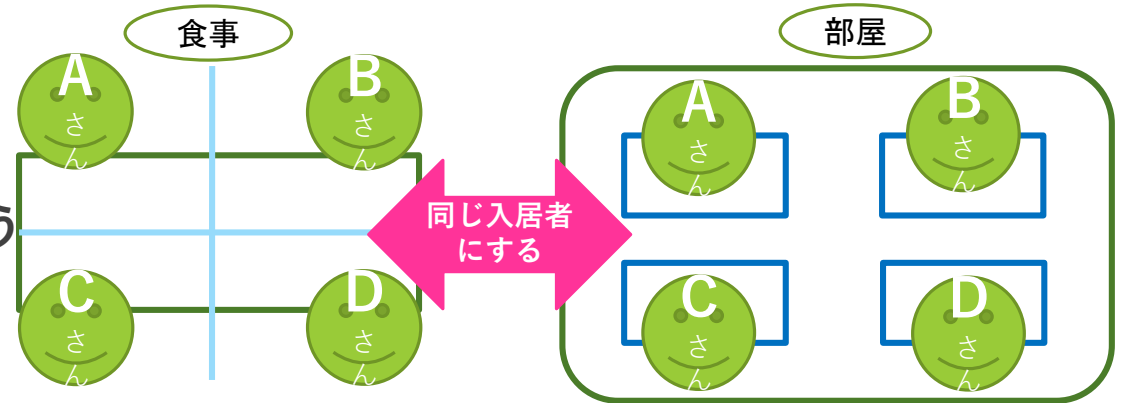
●対面にならない配席



食事の工夫

施設の工夫例

- ①同じ部屋の人と食事の席を同じテーブルにした。
- ②席を記録に残し、すべての職員が確認できるように記録場所を周知した。



良い理由

- ①陽性者が出たときに、隔離対応する対象者が限定される。
- ②記録に残すことで、濃厚接触者を把握し居室対応するなど迅速な対応ができる。

⇒陽性者発生時の感染対策の負担軽減につながる。

他、食堂が各フロア共同の場合はフロアごとに座る場所を分けたり、通所サービスや外出レクリエーションを実施する際、食事の席と送迎車の席を同じにする方法もあります。



介助時の工夫①

◆飛沫が飛散する介助の際は
フェイスシールドの着用で感染リスク軽減。

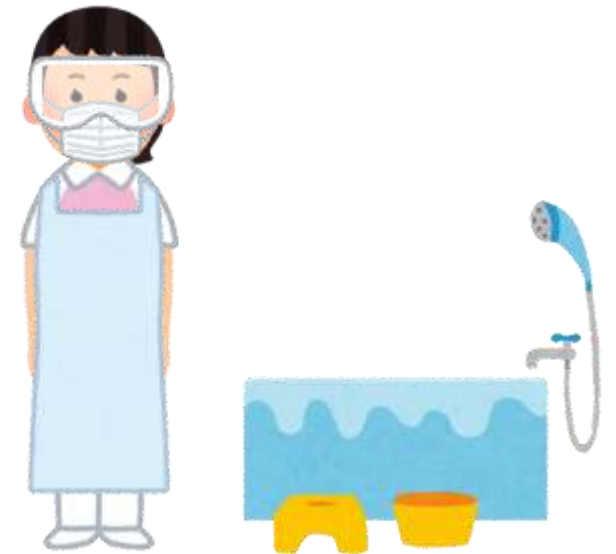
●食事介助



●口腔ケア



●入浴介助



介助時の工夫①

施設の工夫例

- ・ 食事介助の時に、フェイスシールドを着用した。
- ・ 入浴介助の時はフェイスシールドが曇るため、眼鏡型のアイシールドで代用したところ、曇りにくく、職員がつけてくれるようになった。

良い理由

フェイスシールドは、飛沫による感染リスクから職員・入居者ともに守ってくれます。

フェイスシールドは、様々な形があります。職員・場面にあったものを使用してみましょう。

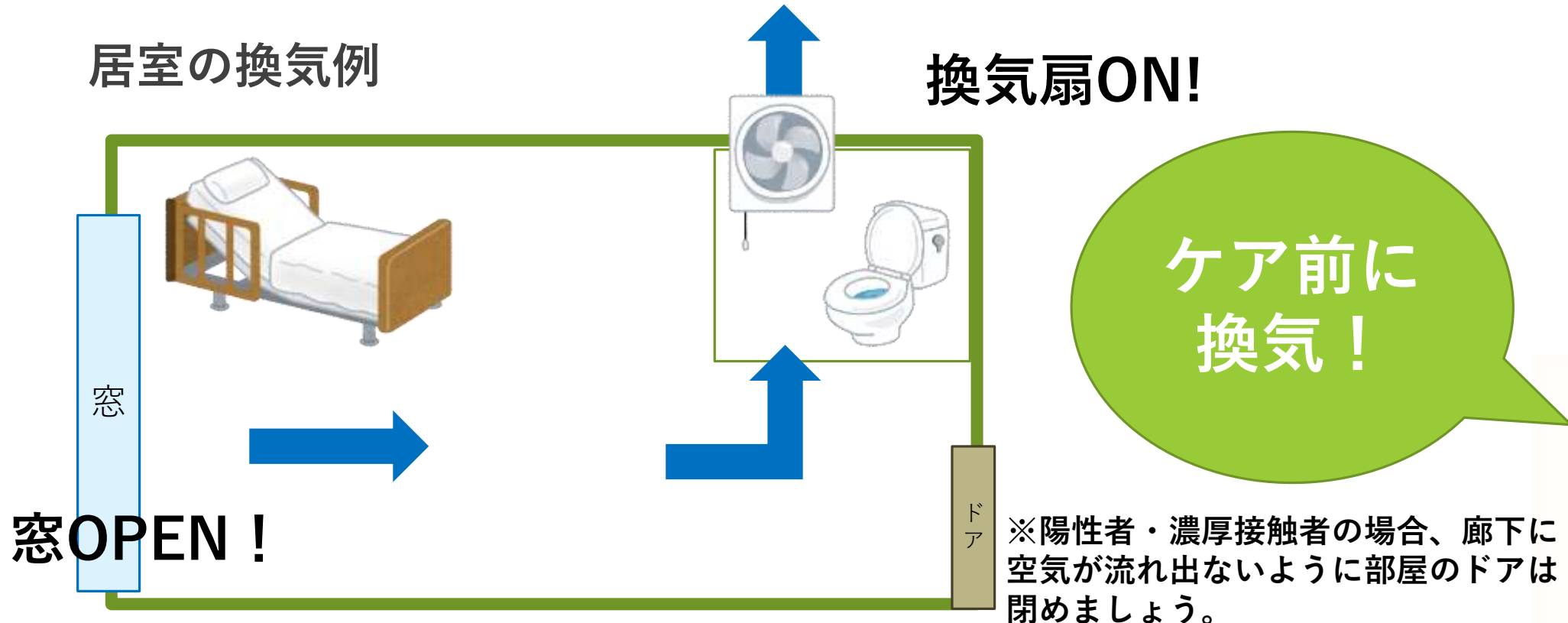
※眼鏡型のアイシールドは曇りにくい一方で、下方、側面から汚染を受けやすいデメリットもあります。目・鼻・口を覆う形のフェイスシールドが感染予防には効果があり、おすすめです。

目・鼻・口を
守ろう！
手指衛生も
大切です！



介助時の工夫②

◆換気は、空気の流れを意識しましょう。



介助時の工夫②

2方向の窓を開けよう。
換気扇の掃除も忘れずに。



施設の工夫例

介助の際、部屋のトイレの換気扇を使用。窓を開け、換気を行った。

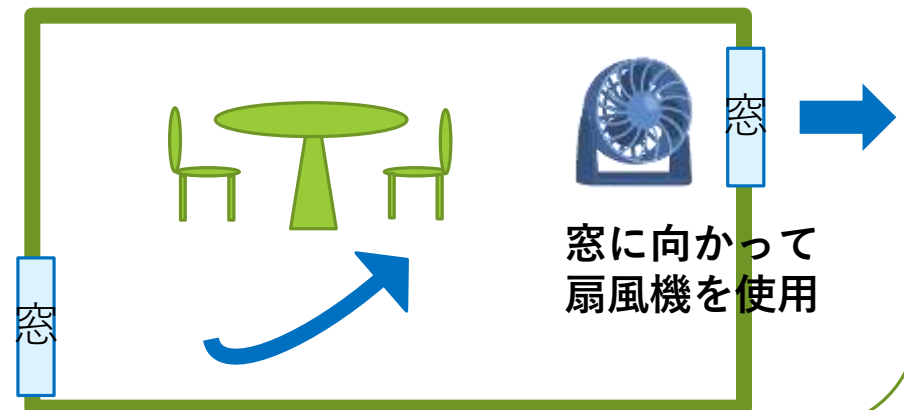
良い理由

エアロゾルによる感染を防ぐためには、空気の流れに配慮することが重要です。

窓が2方向にあれば、空気の流れを作ることができますが、居室など窓が1つしか開けられない場合は換気扇を活用することで、空気の流れをつくることができます。

機械換気がある場合は常時スイッチを入れておきましょう。

効果的な空気の流れの例



介助時の工夫③

◆入居者・職員ともにマスクの着用をできることが感染拡大を予防します。

●移乗



●排せつ介助



●清拭



介助時の工夫③

施設の工夫例

普段マスクの着用が難しい入居者に、おむつ交換の時に理由を説明したうえでマスクをつけてもらった。

良い理由

入居者に対してマスクの着用が難しいことは、多々あると思います。
顔が近くなる介助をするときだけでも、職員・入居者ともにマスクをすれば、感染リスクを抑えることができます。



面会の工夫

◆引き続き、感染対策しながら面会をしていきましょう。

施設の工夫例

●お互いにマスクを着用
換気しながら話す。



●面会者の体調確認。



●予約制をとる。
人数と時間を決める。

予約制

1回〇名
△分まで

面会后、面会者の体調不良が判明したら、施設に連絡してもらうように面会者に伝えておきましょう。

外泊後の工夫

◆外泊、面会後は体調をいつもより丁寧に確認しましょう。

施設の工夫例

外からウイルスを持ち込むリスクに備えて、数日間下記の対応をとる施設もあります。

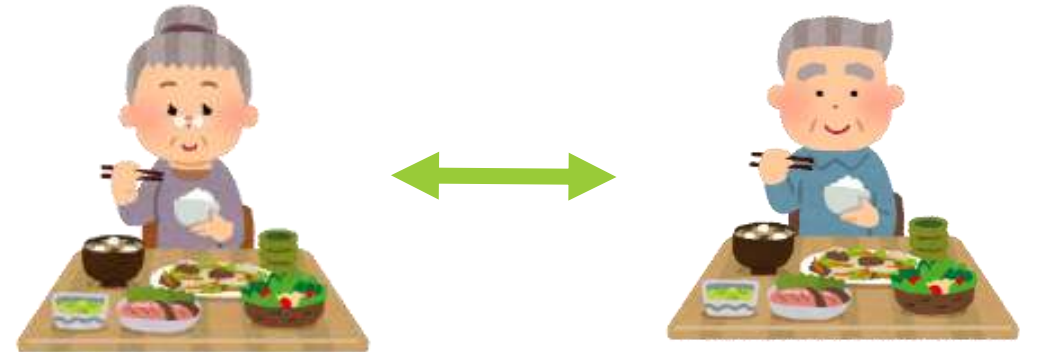
●自室で過ごす



●毎日の体調確認



●食事や入浴のタイミングをずらす
他の入居者と距離をとる



ワクチン

◆令和5年度の接種は… **5月8日～開始**

・令和5年春開始接種 【令和5年5月8日（月）から8月31日（木）まで（予定）】

：新型コロナウイルス感染症にかかった場合 **重症化リスクが高い**者は前倒してさらに1回追加接種

（対象者）従来型ワクチンを2回以上接種した、以下のいずれかに該当する方

- ・65歳以上の高齢者
- ・5～64歳の基礎疾患を有する者その他重症化リスクが高いと医師が認める者
- ・重症化リスクが高い方が集まる場所でサービス提供する医療機関、高齢者・障害者施設等の従事者

・令和5年秋開始接種 【令和5年9月以降（予定）】：追加接種可能な全ての年齢の者

※ワクチン接種が難しい方について

陽性者発生時、ワクチン未接種者については、感染させないよう居室対応（逆隔離）、感染対策をすることが望ましいです。
ワクチン接種歴や未接種者を把握できるよう、接種歴を一覧で管理することを推奨します。

今後に向けて①

◆医療機関と連携しましょう。

5類移行後は、新型コロナウイルスの入院は医療機関間での調整を基本とする仕組みに移行することになります。

そのため、休日・夜間も相談できる嘱託医・かかりつけ医の確保をしておく心安心です。

【施設内療養を行う際に求められる嘱託医・かかりつけ医の役割】

- ・施設からの電話等による相談への対応
- ・施設への往診
- ・入院の可否の判断や入院調整(当該医療機関以外への入院調整も含む)



今後に向けて②

感染対策は、平時からの取組みと事前準備が大切です。

◆感染対策への定期的な研修・訓練

- ・ 個人防護具（PPE）の着脱研修
- ・ 手指衛生の研修
(例：手洗いチェッカーの使用)
- ・ 感染フロアの情報共有
(写真で記録し、振り返る。)

など…

◆物品の在庫確認・補充

- ・ 感染管理委員が在庫管理、補充。
- ・ 月1回程度、消毒剤等の使用期限のチェック。
- ・ 感染拡大による使用量の増加に備え、数日分の備蓄をしておく。
- ・ 物品の保管場所を職員に周知する。

など…

今後に向けて③

感染対策は、平時からの取組みと事前準備が大切です。

◆マニュアルの作成・周知

- ・ 基本的な感染対策マニュアル
- ・ 体調不良者・陽性者（職員・入居者）発生時の対応マニュアル
- ・ クラスター発生時の職員体制マニュアル

など…

⇒作成したマニュアルを、職員間で周知することが大切です。周知することで、感染予防の徹底と初動時のスムーズな対応につながります。

◆人員体制と業務内容の調整

- ・ 陽性者を担当する職員を固定する。
- ・ 法人内での応援体制の検討と依頼する業務を決めておく。
- ・ 業務の優先順位を検討しておく。
- ・ 関係者の連絡先、連絡フローの整理をしておく。

など…